
イストリゲーム

葉崎あすか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イストリゲーム

【Nコード】

N6525C

【作者名】

葉崎あすか

【あらすじ】

掲示板にはある書き込みがされていた……。『夕方に学校の教室ではイス取りゲームができなくなる。ただし、ゲームをはじめた場合は、おわりまでつづけなくてはならない』

「むかしむかし」とははじまらない、とっても最近のことでした。わたしの名前は早苗といいます。わたしの友だちは久実、木香、未砂子といいました。

その場には、他にも男子が数名いました。が、名前は忘れてしまいました。なぜなら、わたしをふくめて、全員がいなくなってしまうのですから。

もう一度いいますが、いなくなってしまったのです。学校の中の、教室の中の、イス取りゲームという遊びの中で。

はじまりは、久実の一言だったと思います。たしか……。

「イス取りゲームをしようよ!」といったのだと思います。その話に木香と未砂子は乗りました。小学五年生にもなって、イス取りゲームなんて……とわたしは思いましたが、それにはちゃんとした理由があるようでした。

最近インターネットの中の掲示板という所で情報を交換するところがこの久実、木香、未砂子の三人の中ではブームだったのだそうです。三人の中だけではなく、全国的にブームなのかもしれません。が、わたしには、さっぱり分からないことでした。

その掲示板の中で、三人はある情報を仕入れたようでした。それは、『夕方に学校の教室ではイス取りゲームができなくなる。ただし、ゲームをはじめた場合は、おわりまでつづけなくてはならない』というものだったそうです。くわしくは書かれていないようでした。ですが、なぜできなくなるのか、という疑問が三人の中ではあったのでしょうか。わたしは、ありませんでした。なぜって、見当がつかずから……。

その日、学校ではクラブ活動が行われていました。いつもの日より下校時間が、遅くなっています。わたしたちはキタクラブという

クラブに所属していました。帰宅とクラブをかけ合わせた、すばらしいネーミングをもつクラブです。つまり、活動しないクラブです。放課後はたくさん時間が取れるということです。

わたしたちは、キタクラブの男子数名を呼びました。女子はわたしたち四人だけでしたし、四人だけではイス取りゲームも、つまらないというものです。できればの話ですが……。

人数は数えてみると十三人でした。今、考えるとなんと不吉な数字でしょう。

六年生が数人いたような気がします。ほとんどが、わたしたちと同じ五年生でした。

イスが十一こ、用意されました。未砂子の家からラジカセも持ってきました。

まどからさす日が、赤みを帯びてきました。いつもは、きれいだと思う夕日の赤はその日だけは、血の色のようにだったことを覚えています。

これで準備はとのいました。

だれかがラジカセの再生ボタンを押しました。

十三人のうち、もう一人は、音楽をとめる役目をしていました。たしか、わたしだったと思います。

——ゲームがはじまりました。

流れているのは、ベートーベンの『運命』

十二人は、十一このイスの周りをゆつくりと歩き始めました。

三十秒ぐらいたったとき、わたしはラジカセの停止ボタンを押しました。

ガタガタというイスをきそって座っている音が、教室にひびきました。

——全員が座れました。

「……………イスの数、まちがったのかな」だれかが、そうつぶやくと、イスを一つ、外しました。

イスの数は、十になりました。人数は十一人です。わたしは、もう一度再生ボタンを押しました。

そして、数十秒間のあと、停止ボタンを押しました。

——また、全員が座れました。

イスを一つ、外します。九つになりました。人数は十人です。最初は、笑いながらゲームをしていたみんなが、だんだんと、無口になってきました。

だれも、やめようとはいいませんでした。掲示板に書いてあった『おわりまでつづけなくてはならない』を、守る必要はないと思いました。ですが、みんなは、取り付かれたかのように、何度も何度もゲームをつづけました。イスの周りを、くるったように、回りつづけました。わたしも、再生と停止のボタンを、何度も何度も、押しつづけました。

五人になりました。

四人になりました。

三人になりました。

二人になりました。

一人になりました。

その一人は、このわたしでした。

なぜか、イスが一つだけありました。

わたしは、だれもいなくなった教室で、イスに座りました。

（後書き）

こんにちは。葉崎あすかです。

この話は、某出版社の怖い話募集という企画に応募したものです。結果は一次選考通過で終わりました。

どこが良いのか悪いのかは作者には分からない事が多いと思いますので、読んだ感想、評価などをお聞かせいただけたら幸いです。それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6525c/>

イストリゲーム

2011年2月1日19時10分発行